

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者の意見		
リーディングハイスクール事業の推進 ①中高一貫教育の推進	(全校レベル) 中高それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立てる。	評価指標 「中学生と高校生それぞれが相乗効果を生み出し、本校を活性化している」と答えた生徒・保護者・教職員が60%以上。	評価指標による達成度 「中高生それぞれが相乗効果を生み出し、本校を活性化している」と答えた生徒61%(+1)、保護者77%(+4)、教職員43%(-22)	総合評価  B	中高一貫校であるメリットを中学生、高校生双方にしっかり明示をしていくべきである。また、教職員も入れ替わりがあるだろうから、常に中高一貫の利点について共通理解を図る必要がある。	① 教員の自己評価が低い項目は、中高の連携に関して更に高い意識を持っているためと考えられる。発達段階の差を考慮しつつ、効果的な連携体制を整備する。 ② 教員の中高の交流をさらに進めるため、引き続き相互授業参観等の機会を継続し、合同の行事等においても、話し合いを密にして、中高一体の意識を高めていく。
	(下位組織レベル) 中高生の関係は良好である。	「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒が60%以上。	「中高生の関係は良好である」と答えた生徒87%(+14)			
		活動計画 ①吉野川堤防清掃作業を中高合同で実施する。 ②城ノ内祭を中高合同で開催する。 ③一部の部活動で中高合同の練習を行う。	活動計画の実施状況 ①吉野川堤防清掃作業を中高合同で2回実施した。 ②文化祭、体育祭を中高合同で開催した。 ③弓道部・美術部・書道部など11部で合同練習を行った。			
リーディングハイスクール事業の推進 ②確かな学力と進路観の育成	(全校レベル) 授業の充実改善に積極的に取り組み、きめ細かな進路指導を行う。	評価指標 「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒89%(±0)、保護者87%(+2)、教職員90%(-5)	総合評価  A	来校者、保護者のアンケート結果など、意見を取り入れてほしい。また、内部からの評価が重要であると考えられるので、授業評価を実施していることはよいことだ。その結果を真摯に捉え教員の授業力向上に努めるべきだ。学力向上に関しては、生徒たちが相互に教え合ったり、学習したりする活動も有益だ。キャリア教育も重視してほしい。	①リーディングハイスクール事業の本格的な実施にあわせて、先取り学習、グローバルイングリッシュの導入、授業数確保などについて、関係教職員の連携を更に強める。 ②検定の実施や外部講師による授業等、学力向上に効果的な取組については、さらに学年間での連携を図りながら継続実施する。 ③大学進学等自己の進路についても1、2年生の段階から意識し、3年生の中だるみをふせぐために、基礎学力テストや学力調査を活用した取組を更に行う。
	(下位組織レベル) 研究授業・授業研究会の実施。	「教員はわかる授業を目指して取り組んでいる」と答えた保護者・教職員が70%以上。	「教員はわかる授業を目指して取り組んでいる」と答えた保護者86%(+5)、教職員90%(-5)			
	各種検定への参加。	「各種検定は学習の励みになる」と答えた生徒・保護者が70%以上。	「各種検定は学習の励みになる」と答えた生徒85%(-1)、保護者94%(+2)			
	外部講師を活用した授業の実施。	外部講師を活用した授業を年間5回以上	外部講師を活用した授業年間9回実施した。			
		活動計画 ①研究授業・授業研究会を中高合同で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③各種検定を積極的に実施する。 ④外部講師を活用した授業を実施する。	活動計画の実施状況 ①中高合同での研究授業・授業研究会を年15回実施した。 ②授業評価を、年間2回実施した。 ③漢字検定1回、数学検定2回、英語検定2回を実施し、ほぼ全員がいずれかの検定を受検した。 ④総合的な学習の時間、体育科、音楽科、社会科、英語科などで外部講師を活用した授業を実施した。			

重点課題		自己評価		学校関係者評価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方針
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方針
人権教育の推進	<p>(全校レベル) 全ての教育活動で人権教育の推進を図る。</p> <p>(下位組織レベル) 学級活動や学校行事の充実を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上</p> <p>「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上</p> <p>活動計画</p> <p>①人権問題についての研究授業、事前研究会を実施する。 ②人権問題意見発表会の実施。 ③人権問題講演会等の実施。 ④職員研修の充実。 ⑤学校生活に関するアンケート調査を、年2回を実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒84%(-2)、保護者85%(+3)、教職員86%(+6)</p> <p>「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒78%(-1)、保護者86%(-1)、教職員88%(+6)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①各学年で研究授業を実施し、事前・事後の研究会を実施した。 ②人権教育意見発表会を実施した。 ③1年生と保護者を対象に、人権問題講演会を実施した。 ④中高合同の職員研修会を2回、地域研修会を1回実施した。 ⑤学校生活での悩み等について、アンケート調査を1学年で2回実施し、面談や生活記録等から生徒理解やいじめ等の問題の早期発見に努めた。</p>	<p>総合評価</p> <p>A</p> <p>(所見) 各評価目標とも大きく目標を上回っていて、良好な評価である。しかし「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」の項目で、生徒と保護者・教員に意識の差が見られる。生徒の実態にさらに踏み込んで、自他を大切に思う心や態度を育成することに努める必要がある。生徒は自己の目標が高くなるので、学年が上がるに従い自己肯定感が下がる傾向がある。</p>	<p>情報モラル教育について、ラインなどのSNSは排除できないものであるとの認識のもとで、しっかりと進めるべきだ。 相談については、担任にはいいにくい事もあるだろうから、情報の把握が複数のルートで組織的にできるような体制を整えてるべきである。</p>	<p>①日常のすべての教育活動で人権が尊重されていると実感できる教育環境を整え、全校をあげて、差別やいじめを絶対に許さない集団づくりを行う。</p> <p>②人権意見発表会や人権学習の授業等において、自他の思いを伝えあい、人権意識を高める。また、相互評価ではなく、絶対評価で自他の努力を認められるよう、毎日の指導を行う。</p> <p>③定期的なアンケート調査を今後も継続実施し、生徒の悩みや問題を早期に発見し、迅速な解決につながるよう努める。</p>
<p>基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養</p>	<p>(全校レベル) 学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>(下位組織レベル) 「挨拶の励行」の徹底。 「城ノ内生としての自覚ある行動」をとる。 「時間厳守」の徹底。 「服装頭髪」指導の徹底。</p>	<p>評価指標</p> <p>「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者・教職員が70%以上。</p> <p>「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。</p> <p>「城ノ内生としての自覚を持った行動ができている」と答えた生徒・教職員が70%以上。</p> <p>「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。</p> <p>「服装頭髪などについて校則が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①あいさつ運動の実施。 ②校内外でのマナーの指導をする。 ③始業前着席の励行。 ④服装頭髪検査を定期的に実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者81%(+8)、教職員95%(±0)</p> <p>「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒77%(+3)、保護者87%(+2)、教職員71%(+16)</p> <p>「城ノ内生としての自覚をもった行動ができている」と答えた生徒79%(+5)、教職員90%(±0)</p> <p>「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒80%(+1)、保護者94%(+1)、教職員95%(±0)</p> <p>「服装頭髪などについて校則が守られている」と答えた生徒79%(+9)、保護者94%(+2)、教職員90%(-10)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①毎朝の教職員、生徒会役員・生活委員及び生徒有志によるあいさつ運動を実施した。 ②毎朝交通委員による駐輪場の整理整頓を実施した。 ③授業2分前着席、教員が授業場所に始業前に行くことを励行した。 ④毎日のクラスでの指導の他、学年等の集会時や行事に機会をとらえ服装頭髪について指導した。</p>	<p>総合評価</p> <p>B</p> <p>(所見) 各評価指標とも目標を上回っていて良好な評価である。しかし、服装等校則が守られていないと感じている教員が昨年より多くなっており、より高い基準で生徒を見ようとしていることが伺える。全教職員の共通理解のもと、指導にあたる必要がある。また、あいさつが交わされていると感じている生徒、教職員が昨年度よりは多くなったが、さらに改善の余地がある。時間厳守は基本的な生活習慣を築く大切な要素として、教師が率先垂範していくことも必要である。</p>	<p>特に学校・家庭の連携が必要となるところである。 中学生は生活記録提出など、きめ細かな指導と生徒把握ができているようだ。 時間を先読みして、長期的に自分のスケジュールを管理するような力を育てる必要もある。</p>	<p>①あいさつは互いが気持ちよく生活していくための基本であり、明るい学校づくりに欠かせないものである。このことを繰り返し機会を捉えて指導し、道徳等の授業の中で深く考えさせ、行動につなげていく。</p> <p>②定期的実施している学習実態調査の結果を基に、家庭での生徒の時間の使い方を把握し、保護者と連携しながら基本的な生活習慣の確立をめざす。</p> <p>③規律ある行動は、時間の遵守から始まる。授業開始2分前着席の徹底や行事の際の10分前行動など、今後も継続できるように全教職員で実践、指導していく。</p>

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者の意見	
防災・安全教育の徹底と環境教育の推進	(全校レベル) 防災意識の高揚に努め、防災への取組を推進する。	評価指標 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒81%(-1)、保護者87%(+6)、教職員86%(+6)	総合評価 <b>B</b> (所見) 「防災意識の高揚と、防災への取組の推進」については、各項目とも目標を大きく上回る良好な評価である。「交通ルールやマナー」については、生徒の意識は改善傾向にあるが依然として芳しくない。生徒と教員の意識の差も大きい。違反者の増加、マナーの低下は、交通事故につながる可能性も大きく、命に関わる重大な問題だと認識させ、ルールやマナーの遵守を徹底させたい。「ゴミの分別や節電・節水」に関しては、良好な評価となっている。	有事の際には、高校生が中学生を助けていかに動けるかが重要になると考えるので、そういった視点での訓練や計画を実施する。 「学校環境の整備」と「安全教育」はどちらも大きな項目で、取組も分けて考えるべきところがあるので、評価項目としても別にすべきだ。
	(下位組織レベル) 防災意識の高揚に努め、防災への取組を推進する。 交通ルールや交通マナーを守る。 清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている。 ゴミの分別や節電・節水に取り組む。	「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒・教職員が70%以上。 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒・教職員が70%以上。 「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が70%以上。	「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒65%(+23)、教職員48%(-7) 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒80%(+2)、教職員81%(+1) 「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒80%(+8)、教職員90%(+5)		
		活動計画 ①防災避難訓練(火災・地震・津波)を年2回実施する。 ②交通安全教室を実施し、安全教育の徹底を図る。 ③毎日の清掃活動を充実させる。 ④吉野川堤防清掃活動や学校内外の清掃活動に年3回以上取り組む。	活動計画の実施状況 ①防災避難訓練(火災・地震・津波)を2回実施し、Jアラートによる初期退避行動訓練を2回実施した ②交通安全教室を実施した。また、PTA校外指導部が朝の立哨指導を実施した。 ③。清掃時の生徒管理を適切に行う。 ④吉野川堤防清掃活動を、中高合同で2回実施した。(7、12月実施、10月は雨天中止)		①防災意識の高揚を図るため、職員研修を充実させる。また、災害時の様々な事態を想定して、実質的な対応が迅速にとれるように、環境整備及び教職員体制の改善を行う。 ②生徒への交通安全教室の実施や、自転車の定期点検、また日々の啓発活動とともに、教職員による、街頭での立哨指導を計画的に実施する。 ③ゴミの分別、節電・節水、リサイクル活動、吉野川堤防清掃、また毎日の清掃活動を生徒が主体的に行い、新学校版環境ISOの取組を推進していく。
特別活動の活性化	(全校レベル) 学校行事を充実させ、学校全体を活性化させる。	評価指標 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒92%(-1)、保護者95%(+2)、教職員95%(±0)	総合評価 <b>A</b> (所見) 各項目もおおむね目標を上回っている。体験的な活動を取り入れた様々な学校行事は、生徒・保護者にも高い支持を得ている。生徒会活動、部活動でも活発な活動が展開されているが、教員の生徒会活動に関する評価が低く、よりよりあり方について検討が必要である。	生徒会の活動について、教職員が大きくマイナスになっていることが気になる。生徒会活動についての教職員の共通理解・認識を更に進めるべきだ。 ①各行事をPDCAサイクルにより生徒の実態に即し、より効果的な実施ができるように改善していく。 ②部活動については、男子生徒の増加などへの対応、練習場所の確保、設備の改善が急がれる。生徒会活動は、より主体的な活動が展開できるように、生徒の育成を図る。また、高校生生徒会との連携も強化していく。
	(下位組織レベル) 部活動を活発にする。 生徒会活動の充実を図る。	「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「生徒会は活発に活動している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「部活動は活発である」と答えた生徒87%(+4)、保護者82%(+2)、教職員81%(+26) 「生徒会は活発に活動している」と答えた生徒83%(±0)、教職員57%(-23)		
		活動計画 ①部活動を活性化させる。 ②生徒会活動を活性化させる。	活動計画の実施状況 ①部活動加入率は1年 95%、2年 88%、3年 90%。(4月末現在) ②生徒会執行部が中心となり、各専門委員会がそれぞれの役割を計画的に実施し、充実した活動を行った。		

重点課題		重点目標		自己評価		学校関係者評価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方針
		評価指標と活動計画		評価指標による達成度		総合評価		
開かれた学校づくりの推進	(全校レベル)	評価指標	「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者が70%以上。	評価指標による達成度	「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者92%(+5)	A	ホームページはリアルタイムで更新され、季節の話題等も内容も工夫された充実したものだと思う。引き続き多彩な内容を取り上げ発信して欲しい。	①ホームページ上での、生徒の学校生活の様子は、個人情報保護に留意しながら、可能な限り掲載していく。また、その更新が迅速に行われるように努める。教員の監修のもと生徒の運営するページがあってもよいかと思われるので検討を進める。
	(下位組織レベル)	評価指標	ホームページの更新に全ての教員が関わり、少なくとも週に1度は更新されるようにする。	達成度	多くの教員がホームページを更新し、学校全体として、平均週5回以上更新することができた。			
	学校公開の日の実施。	評価指標	「学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者が70%以上。	達成度	「学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者96%(+4)、教職員90%(±0)			
	城ノ内祭の公開。	評価指標	「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	達成度	「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒94%(+4)、保護者95%(+3)、教職員90%(+5)			
		活動計画	①ホームページを随時更新する。 ②「学校公開の日」を実施する。 ③文化祭を公開する。 ④スクールガイドの発行。	活動計画の実施状況	①ホームページへの年間アクセス数は422,842回(昨年比39%増)、総アクセス数は1,654,859回(2015.2.4現在) ②学校公開の日への参加者453名。 ③文化祭を公開し、1761名が来校した。 ④スクールガイドを改訂し発行した。			
学校運営体制の充実	(全校レベル)	評価指標	「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が70%以上	評価指標による達成度	「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒90%(+1)、保護者91%(+3)	A	概ね満足な結果であると思える。行事等での駐車場の確保が課題とされているが、地域の実情から抜本的な解決は難しい。	①中高の連携をさらに推進していくために、特設の中高合同会議の他、各教科・課で、定期的な会議の機会を設定し、恒常的に連携を密接なものにしていく。
	(下位組織レベル)	評価指標	月例運営委員会や職員会議を活性化させるとともにPTA活動の充実を図る。	達成度	「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒・保護者が70%以上			
	月例運営委員会	評価指標	「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者・教職員が70%以上	達成度	「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者89%(±0)、教職員95%(±0)			
	で学校生活や教育活動全般を点検するとともに各学年、各課などにおいて課題解決を図る。	活動計画	①運営委員会を毎月1回開催する。 ②定期的に中学職員会や学年部会を開催する。 ③中高合同PTA役員会を年5回開催し課題解決に取り組む。	活動計画の実施状況	①中高合同の運営委員会を毎月1回実施し、各課題について協議した。(年12回開催) ②毎月1回、中学職員会を実施し、職員の共通理解を図った。また、学年部会を随時開催した。 ③中高合同PTA役員会が4回開催され、活発な議論がなされた。また、中学校PTA役員会も3回実施し、PTA組織の活性化等が話合われた。			
		活動計画	①運営委員会を毎月1回開催する。 ②定期的に中学職員会や学年部会を開催する。 ③中高合同PTA役員会を年5回開催し課題解決に取り組む。	活動計画の実施状況	①中高合同の運営委員会を毎月1回実施し、各課題について協議した。(年12回開催) ②毎月1回、中学職員会を実施し、職員の共通理解を図った。また、学年部会を随時開催した。 ③中高合同PTA役員会が4回開催され、活発な議論がなされた。また、中学校PTA役員会も3回実施し、PTA組織の活性化等が話合われた。	②中学校単独の会議も、必要不可欠なものであるから、計画的かつ効果的に実施する。 ③保護者の理解と協力を求め、関係を図りながら生徒の学習・生活環境の整備のために新しい試みを進めていく。		